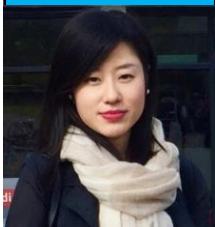


テーマ

文理融合型教育の実践



研究分野

言語教育(日本語と中国語) *Language Education (Japanese and Chinese)*, 中国語学 *Chinese Linguistics*, 第二言語習得 *Second Language Acquisition (SLA)*, 心理言語学 *Psycholinguistics*, 日中言語対照研究 *Contrastive Studies on Japanese and Chinese*, 言語特性に関する実証的研究 *Empirical Studies on Linguistic Features*

主要業績

- ・張婧禕・玉岡賀津雄・勝川裕子 (2020) 「日本人中国語学習者によるポーズと重音のプロソディ理解」『中国語教育』, 18, 71-88.
- ・Tamaoka, K. & Zhang, J. (2022) The Effect of Chinese Proficiency on Determining Temporal Adverb Position by Native Japanese Speakers Learning Chinese. *Frontiers in Psychology*, 12. (Impact Factor=4.23) <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2021.783366>

個人HP



特色ある取組

言語研究は直感ではなく、科学です。とりわけ、現在、人工知能(AI)技術の急速な進展に伴い、自然言語処理などの言語分野で注目を集めており、理工系分野で使用されているデータの収集・分析法などの実証的なアプローチを用いて、言語を巡る仮説を検証するようになりました。一方、近年、大学をはじめとした教育機関などでは、文理融合の動きが高まっています。こうした背景のもとで、「外国語習得論」という名称の講義を開設し、以下のように文理融合の教育を促進しております。

**授業目的** この授業では、言語習得のプロセスを研究対象に、科学的な検証に基づいた多様な研究手法を紹介することで、「文系?理系?」という学問分野の壁を打ち破って、柔軟な問題解決能力の育成を目的としています。

**3つの能力の養成** 各授業のテーマについて、身近な言語事象から仮説を立てるための「洞察力」、中間発表と期末レポートを課題として設けており、言語習得を科学的に研究するための調査・実験計画の立案、データの収集と統計解析、分析結果の読み方、論文での報告の仕方など一連の論文作成のための「分析力」、および理論に基づいた分析結果を論理的に解釈し、総括する「考察力」を養成します。

**教育の質を高めるための取り組み** 教育の一環として、日本国内・国際的に活躍されている研究者を招待し、宮崎大学の学生と教員に実証研究の講義を提供するための「外国語習得論」講演会を年に1回開催しています。母語および母語以外の言語を習得する際の諸相を多様な角度からの科学的な実証法の理解を深め、学際的な研究の魅力を伝える授業を継続的に発信できるよう努力しています。今後、さらに授業内容を改善していきたいと考えています。

期待できる成果

文理融合の「実践知」を育む教育で持続可能で、多様性と包摂性のある社会を創る人材の育成が期待されます。

取組の様子

